

変わりゆく国際秩序の潮流

Diplomacy
外交Vol. 95 2026
Jan./Feb.

今月の表紙

米国の「力の空白」でユー
ラシア・中東地域がクローズ
アップ。国同士の連接で何が
生まれるのか (AFP＝時事)

6

特別対談 ● 2026年の日本外交

「自由で開かれたインド太平洋」のさらなる推進を 茂木敏充（外務大臣）× 細谷雄一（慶應義塾大学）

14

揺らぐ国際秩序 誰がルールを構築するのか

座談会 ● 石井正文（リサーチ総合研究所）× 松田康博（東京大学）× 森聡（慶應義塾大学）× 伊藤さゆり（ニッセイ基礎研究所）

28

「国家としての生存戦略」の模索 田所昌幸（国際大学）

34

ウクライナ侵略を「凍結された紛争」にするな 東野篤子（筑波大学）

40

台湾と北朝鮮から東アジア情勢を見ると

対談 ● 平岩俊司（南山大学）× 福田 円（法政大学）

50

インド太平洋有志国連合のダイナミズム 古賀 慶（南洋理工大學）

56

COP30・国際規範化される気候ガバナンス 高橋若菜（宇都宮大学）

62

高市外交の始動 モンロー主義の米国と向き合う 北岡伸一（東京大学）

68

日本の成長戦略を問う
成長へ高市政権の役割は 官民協力と外交戦略

インタビュー ● 片岡剛士（PWCコンサルティング）× 飯塚恵子（読売新聞）

Part1 漂流する大国政治と地域秩序

76

2026年、民主主義はどう展開するか 市原麻衣子（橋大学）

78

極右政党はなぜドイツ社会に「定着」したか 板橋拓己（東京大学）

84

「代表の空白」を埋めたりフォーラムUKの躍進 若松邦弘（東京外国語大学）

90

モルドバから考える南東欧情勢 片山芳宏（前駐モルドバ大使）

96

タイ軍部・保守派の復権とナシヨナリズム 外山文子（筑波大学）

民主主義を脆弱化させる「情報空間」 加藤あかり（ニッセイ総合研究所）

Part2 分極化に直面する民主主義

「輸送回廊」から見る中東ユーラシア秩序のゆくえ

座談会 ● 笠井亮平（岐阜女子大学）× 斎藤正道（中東調査会）× 中馬瑞貴（ロシアNIS経済研究所）× 二船恵美（駒澤大学）

支援から参加へ日ASEAN関係の変容と展望 鈴木早苗（東京大学）

対中央アジア外交章分け 日本の戦略は

― 第1回「中央アジア+日本」首脳会合から 齋藤竜太（ロシアNIS経済研究所）

民主化とクーデター二つのミャンマーと向き合う

インタビュー ● 丸山市郎（前駐ミャンマー大使）× 服部龍二（中央大学）

選挙という名の「利権配分」 戦後22年 イラク政治の現在地 古岡明子（日本エネルギー経済研究所）

108

120

126

132

140

Part3 地域連携は新しい秩序を生み出すか

連載

外務省だより

インフォメーション

ブックレビュー 宇野重規（東京大学）

新刊案内

英文目次

IN&OUT

144 119 27

153 150 148